

南相馬市から世界へ。 空を自由に飛べる近未来。

PeVTOLの操縦安全性・離着陸安全性を高めるコックピットの 実用化開発



安心で安全な個人用 空飛ぶクルマ

空を自由に飛べる社会は、それほど遠い未来ではありません。空飛ぶクルマは、日本で2025年に開催される万博頃から本格的な事業化の検討が進められています。300兆円とも言われる将来の大型市場の見込みに対して、国内の機体メーカーとして、安心で安全な個人用空飛ぶクルマPeVTOLを提供します。

安心・安全の重点項目としてコックピット空間の開発・検証が不可欠です。さらに、PeVTOLの販売に適用される法規には、解釈の曖昧さが存在するため、当社から安全性や操縦性が妥当であることを示す必要があります。コックピットを先行して重点的に開発し、試作PeVTOLへの搭載を行うことで、操縦者の安全性と操縦性を検証します。これらの開発を地上検証部分と、インテグレーション部分に分割し、それぞれについて、専門家の知識に基づきながら、開発を行っています。地上検証部分では、簡易モックにて各種イン

ターフェースの位置・取り回しや視認性などを検証し、これを操縦モックに反映して、どのような認知を生むかを検証します。インテグレーション部分では、操縦インターフェースからの情報を受けた現実のPeVTOLの動作が、操縦者にどのような影響を与えるのかを調査します。実用化の判断基準として操縦安全性・緊急着陸安全性・実用性の観点から目標値を設定します。

より快適で安全に移動できる空飛ぶクルマの開発・製造を通し、私たちは次代の在り方を提案します。過密化した大都市圏での交通手段をはじめ、過疎地域や離島・山間部、あるいは被災地へアプローチする際の有効な選択肢が増えれば利便性が高まります。レクリエーションからビジネスまで、近未来に大きなメリットをもたらす開発です。



代表取締役
中井 佑

空飛ぶクルマの 世界市場

2023年には数十台のPeVTOLを販売(予約)することを予定しています。航空機の自家用操縦士免許を持つ人口16万人のうち25%を占める4万人は年間所得が200,000\$を超える富裕層です。特に米国では可処分所得が30億円を超える超超富裕層が18万人存在する巨大市場であり、現在自家用操縦士免許(PPL)を持つ顧客だけでなく、PeVTOLの開発に合わせてPPLを取得する富裕層の増加も見込んでいます。

日本における法改正を待ちつつ、米国市場向けの生産を優先して進めることを想定しており、福島ロボットテストフィールドに近接した土地での研究開発、試験、実証を推し進めています。このことは浜通り地区の復興工業団地の活用や、当社の生産拠点・離発着に関わる実験場を整備することで、



産業集積を実現します。さらに、福島県と情報連携し、ロボットテストフィールドでの実機展示や「マンガで分かる!空飛ぶクルマ」という書籍を県内の小学校・児童館に寄付しており、福島県産のモデル産業として醸成に寄与しています。航空・ロボットの位置付けは地域のブランド化となっており、原発のイメージではなく、自動化と省力化を図った先進的な持続可能技術を持った地域として大きく発展すると考えています。航空機製造業として大きな基盤を持つ福島県で、浜通りを中心に復興の柱となるべく空飛ぶクルマ産業を発展させ、新幹線の駅や空港のない街への人の活発な移動を実現し、街に活力を与える未来を実現します。

関係者からのメッセージ

舞い上がれ、 福島から世界の空へ。

株式会社吉増製作所 代表取締役 吉増 弾司

当社は航空機のエンジン部品の製造を行っている会社ですが、2020年の8月にテトラ・アビエーション殿に出資をし

て資本業務提携を締結いたしており、胴体や翼の部品加工等に携わっております。

半世紀以上に及ぶ航空機部品製造の経験を活かし、福島県産の空飛ぶクルマが世界中の空に舞い上がるのを全力でサポートしていきます。

企業情報 テトラ・アビエーション株式会社

住所 〒113-0032 東京都文京区弥生二丁目15番10-101号
〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜新赤沼83番
創業 2018年6月
社員数 25名
TEL 050-3145-0155 (担当:総務部)
URL <https://www.tetra-aviation.com/>

事業内容

空を自由に、快適に移動できる。そんな社会の実現を目指し、次世代モビリティとして期待される一人乗り航空機(空飛ぶクルマ)の研究開発・製造・提案に取り組んでいます。都市交通や物流の課題も解決できる新しい技術を社会へ根づかせ、空を活かす可能性を全世界の皆様と分かち合うのが願いです。

